



国際生物多様性年関連事業 田んぼイニシアティブ 「世界一 田めになる学校 in 東京大学」！

宮城県大崎市（マガン）、新潟県佐渡市（トキ）、豊岡市（コウノトリ）の3市が、自然と共生するまちづくりを目指し、地域の水田と生物多様性の重要性や今後の農のあり方について考え、活動するきっかけとなるシンポジウムを開催する。

1. 趣旨・背景

マガンと共に暮らす宮城県大崎市、トキの野生復帰に取り組む新潟県佐渡市、そしてコウノトリ野生復帰に取り組む本市は、これまでも様々な場面で、連携・交流を行ってきた。

特に、水田と子どもたちに関する分野における連携・交流は、各市が、未来志向の自然と共生するまちづくりを目指し、マガン・トキ・コウノトリの重要な生息地である水田を中心とした取組みを行ってきたことと相まって、盛んに行われてきた。

この各市の自然との共生、地域、とりわけ水田の生物多様性保全を基本とした取組みは、国際生物多様性年である今年、日本の未来に向けて、しっかり発信するべきものである。また、2010年10月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）も行われることから、日本のみならず、世界の未来にとっても重要な意味を持つものとする。このような状況の中、未来を担う子どもたちを中心に、地域の水田と生物多様性の重要性や今後の農のあり方について考え、活動し、また、各市の取組みをアピールする中で、広く一般の方々にも考えてもらうため、国内最大の消費・情報発信の地である東京を舞台に、「田んぼと子ども（＝未来）」をテーマにシンポジウムを開催する。

2. 概要

（1）日時

平成22年8月9日（月） 13:30～16:30

（2）場所

東京大学弥生講堂 一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内）

（3）内容

別紙チラシ「今日の時間割」のとおり

< 田んぼ宣言の採択に向けて >

3市の子どもたちは、マガン・トキ・コウノトリそれぞれが暮らしていけるような地域のあり方について考えてきた。でもそれは、鳥だけの問題ではなく、実は自分たち自身にとっての問題であることを分かっている。

農とは？自然との関わり方とは？・・・身近にある「田んぼ」が自分たちの未来の鍵を握っている。

子どもたち、つくる人、食べる人、事業を行う人、研究を行う人。それぞれが、「田んぼ」をテーマに今後を考え、自身の関わりや行動について宣言を行う場とする。

田んぼ宣言

（共通宣言文）

（ぼくらの田んぼ行動）

- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____



(4) 主催

宮城県大崎市、新潟県佐渡市、兵庫県豊岡市

(5) 後援

JA全農 ほか

(6) 協力

コウノトリ生息地保全協議会 ・ トキと暮らす郷づくり推進協議会

NPO 法人生物多様性農業支援センター ・ 宮城教育大学環境教育実践研究センター

(7) 参集者

約300人

(8) 参加費

無料

〔問合せ〕豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課 0796 - 21 - 9017